

Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄に ついて説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する 内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

<u>Expressワークステーションの特長(2ページ)</u>	Expressワークステーションの特長や添付(また は別売品)のソフトウェア、および各種オプショ ンとソフトウェアの組み合わせによって実現でき るシステム管理のための機能について説明してい ます。
<u>導入のポイント(4ページ)</u>	Expressワークステーションをご利用されるシス テムを構築する際に知っておいていただきたい事 柄や、参考となるアドバイスが記載されていま す。
<u>ユーザ登録(9ページ)</u>	ユーザ登録の方法について説明しています。 Express5800シリーズ製品に関するさまざまな 情報を入手できます。ぜひユーザ登録をしてくだ さい。
<u>セットアップ(10ページ)</u>	Expressワークステーションをお使いになれるま でに必要な手順について順を追って説明していま す。

Express**ワークステーションの特長**

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。



- Intel[®] III Xeon[™] Processor (733MHz)搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタ フェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(Ultra ATA66対応)



- バスパリティエラー検出
- 温度検知
- パスワード機能
- 内蔵ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ縮退機能
- ウォッチドッグタイマ機能



- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能



- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT)搭載
- EL Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能



スリープ機能 オプションボードによっては、機能しないものもある)



- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager



● Power On Self-Test(POST) ● テスト診断(T&D)

すぐに使える

● Microsoft⊚ Windows⊚2000 Professionalイ ンストール済み



- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリ
- ティ)
 - SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)



- PCIバス×3スロット
- AGPバス×1スロット
- 最大2GBのメモリ(DIMM×4スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな 機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプ ションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした 最適なシステムが構築できます。

本体管理

Expressワークステーションのハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能/ 信頼性機能を提供します。

ストレージ管理

● 内蔵のハードディスクと外付けのDATなどのバックアップ装置機能を提供します。

テープ装置へのデータのバックアップはWindows 2000標準のバックアップの他に ARCserve、BackupEXECによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は 別売のオプションです。

 ● オプションのディスクアレイコントローラとオプションの増設筐体によるディスク管理 機能を提供します。

ハードディスクの耐障害性を高めることは、直接的にシステム全体の信頼性を高めることにつながると言えます。Expressワークステーションが提供するディスクアレイコントローラを使用することにより、ディスクドライブをグループ化して冗長性を高め、 データの損失を防ぐとともにハードディスクの稼働率を向上することができます。

ネットワーク管理

クライアント / サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ / ワークス テーション、ルータ、Hubなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。 なお、ルータやHubの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

電源管理

商用電源のトラブルは、ワークステーションを停止させる大きな原因のひとつです。 停電や瞬断に加え、電圧低下、過負荷配電、電力設備の故障などがシステムダウンの要因と なる場合があります。

無停電電源装置(UPS)は、停電や瞬断で通常使用している商用電源の電圧が低下し始める と、自動的にバッテリから電源を供給。システムの停止を防ぎます。システム管理者は、そ の間にファイルの保存など、必要な処理を行うことができます。また、電圧や電流の変動を 抑え、電源装置の寿命を延ばして平均故障間隔(MTBF)の延長にも貢献します。また、スケ ジュール等によるサーバの自動・無人運転も実現することもできます。

Expressワークステーションでは、NEC社製多機能UPS(I-UPSPro)を提供しており、 ESMPRO/UPSControllerで管理・制御します。 導入編

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントを説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について 留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認 してください(添付の構成品表を参照してください)。万一、足りないものや破損しているも のがあったときはお買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するため に必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシス テムを構築しておくことが望まれます。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER[™]」には、Expressワークステーション、および Express5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリ ケーション「ESMPRO[®]」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ 障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用 してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

ハードウェアのセットアップ

別途購入された内蔵用オプションの取り付けや、設置、添付品・外付け機器の接続など Expressワークステーションの電源をONにすることができる状態にセットアップしてください。10ページで詳しい流れを説明しています。

オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションには、Windows 2000 Professional 日本語版がす でにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザ固有の情報など必要な 設定を入力するだけで使用できるようになっています。 [Windows 2000 Professionalのシステムを修復する場合は...]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

● システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した 場合に、Windows 2000 セットアップブートディスクを使用して、システムを起動可 能な状態にするものです。

システムの修復は、破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリ ティやユーザ情報等も保存された状態でシステムが起動可能になりますが、システムの 修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明す るシステムのリカバリにてシステムの修復をしてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

システムのリカバリ

システムのリカバリとは、カスタムインストールで出荷されたNEC Express5800/50シ リーズについて、システム破損等の理由でOSが起動不可になった場合などに、バック アップCDを用いてハードディスクを出荷時の状態に戻すことにより、システムを起動可 能にするものです。

バックアップCDを使用して出荷時状態に戻ったハードディスクは、必要最小限のセット アップを行なっているため、リカバリを行う前の各種ユーティリティやユーザ情報等は 全て失われてしまいます。各種ソフトウェアについてはシステムのリカバリ後、手動で インストールしてください。

バックアップCDを用いた方法については22ページで説明しています。

管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストー ルします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールする ことができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害 情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(イ ンストールについては138ページで説明しています)。ESMPRO/ServerManagerは Expressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのア プリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたア プリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店、または保守サービス会 社にお問い合わせください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行います。詳しくは17ページをご覧ください。

NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の 状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保 守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣な どのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧 めします。

購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

Expressワークステーションに標準装備のハー ドディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professionalと保守用ユーティリティがあらか じめインストールされています。 空きェリア また、約16MBほどの「保守用パーティション」(約18GB)・ がもうけられています。 「保守用パーティション」とは、Expressワーク ステーション特有の構成情報や専用のユーティ リティを保存するために使用されるパーティ ションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディ Mi スク上へ確保します(保守用パーティション (20 は、1度作成されると以降は作成されません)。

本装置の構成情報や専用のユーティ リティを使用するために必要な情報 が保存される。(このパーティショ ンを削除しないでください) (約18GB)

> Microsoft Windows 2000 Professional (2GB、購入時にパーティションを指定でき ます。)

□ 保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を保持
 □ 重要 するためにもこのパーティションを削除しないでください。

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(DIMM)ボードの故 障を検出すると自動的に故障したDIMMを切離して運用する機能です(故障したDIMMは早め に交換することをお勧めします)。

縮退機能は、DIMMを増設し、2枚以上のDIMMでの運用中に、いずれか1つのDIMMで障害 が発生した場合に有効です。

DIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

DIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティ リティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することがで きます。

障害の発生したDIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、 「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で[Clear DIMM Errors]を選択しま す。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらか じめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電 源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を[Stay Off]に、「Wake On LAN」を[Enabled]に設定し ます。

UPS接続時のポイント

Expressワークステーションの電源コードを無停電電源装置(UPS)に接続している場合、 UPSからExpressワークステーションの電源を制御できる電源連動(AC-LINK)機能を使用す ることができます。

このAC-LINK機能を使用してExpressワークステーションの電源ON/OFFを行う場合は、 BIOSセットアップユーティリティの「System Hardware」メニューの「AC-LINK」を[Power On]に設定します。また、UPSを正しく動作させるためにお使いになるUPSに合ったソフト ウェアの設定が必要です。ソフトウェア編を参照して正しく設定してください。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアッ プ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的 に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。 主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows2000バックアップツール(Windows 2000標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExec(ベリタス社)

ストレージ管理機能を利用する場合は、以下に注意してください。

 ディスクアレイシステムの管理を行うには、Expressワークステーション上にESMPRO/ ServerManager、ESMPRO/ServerAgentに加えてGAMドライバ、GAM Serverをイ ンストールしておく必要があります。Global Array Manager(GAM)に関する説明に従っ てGAMドライバ、GAM Serverをインストールしてください。

- Array Recovery Too(ART)や自動クリーンアップツールを併用することにより、さらに、ディスク稼働率や予防保守性を高めることができます。ディスクアレイシステムを構築する際は、Array Recovery Too(ART)や自動クリーンアップツールも一緒にご利用されることをお勧めします。
- DAT装置をご利用いただく場合、ヘッドの汚れによりデータの読み書きが正常に行われず、バックアップ/リストア中にエラーが発生する場合があります。クリーニングテープにより、定期的にヘッドを清掃するよう心がけてください。

ユーザ登録

添付の「お客様登録申込書」に所定事項をご記入の上、投函してください。ユーザ登録は添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」にある「オンラインユーザ登録ツール」を利用して登録することもできます。

- 1. OSを起動する。
- CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示さ れます。

3. メニュー上の[4th] Bundle Software) @EXPRESSBULLOER-ME をクリックする。

メニューが表示されます。

 4. [オンラインユーザ登録ツール をクリッ クする。

オンラインユーザ登録ツールが起動しま す。画面に従って登録を完了してくださ い。



セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際にも参照 してください。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

- 1. 別途購入したオプションのメモリやPCIボード、内蔵型デバイスを取り付ける。(48ページ)
- 2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(30ページ)
- 3. ディスプレイ装置やマウス、キーボード、ケーブルなどの周辺装置をExpressワークステーションに接続する。(32ページ)
- 4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(32ページ)
- 5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

71ページに示す設定例を参考にしてください。

初めて電源をONにするとき

購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、お客様がすぐに使えるように パーティションの設定から、OS、Expressワークステーションが提供するソフトウェアがす べてインストールされています。

セットアップをはじめる前に ~購入時の状態について~

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

Expressワークステーションのハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも 含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様 によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。 右図は、標準的なExpressワークステーションの ハードディスクの構成について図解しています。



Windows 2000のセットアップ

次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにし、そのままWindows 2000を起動する。

[Windows 2000 Professional セットアップ)画面が表示されます。

- 2. [次へ」ボタンをクリックする。
 [使用許諾契約 画面が表示されます。
- [同意します]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックする。
 以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。
- 画面の指示に従って必要な設定をする。
 セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。
- 5. [完了]ボタンをクリックする。

Expressワークステーションが再起動します。

以上でWindows 2000のセットアップは終了です。ログオン後、「システムのアップデート」 が自動適用されます。

┳━○ ディスク構成について

重要

セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「MAINTE_P」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

ヨコンピュータの破理								_ 8
操作④ 表示② ~ → E		教						
99-	ポリューム	レイアウト	種類	ファイル システム	状態	容量	空き捕城	空き領域の割合
見コンピュータの管理 ローカル		パーティジョン	<	NIFS	正常の人行い	1.95 GB	1.02 GB	52 N
百 鑑 システム ツール	MAINTE P	パーティンエン	5-200	FAT	王帝	15 MB	10 MB	66 K
		11 21242			2.07	10100	10 100	
二月 デバイスマネージャ	×.							
白 (金) 口ーカル ユーザーとグループ	() opposi	a						
ディスクの管理	COROM (D.)	°						
一部 ディスクデフラグ ツール	オンライン							
● 2015-パブル記憶板	@ 7-12!							
由 🔂 サービスとアプリケーション	ペーシック 1695 GB	MAINTE P	1 C A NTE		140	8.08		
	30545	王帝	625L	5	未	前当て		
		>						
	■ 未審約当て	プライマリ パーティン	/a)/				í "A A	865.8

ドライバのインストールと詳細設定

OSのセットアップおよびシステムのリカバリの後、各種のドライバのインストールとセットアップを行います。

標準装備のネットワークドライバやディスプレイドライバは、購入時にインストール済みで す。必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除を行ったり、転送速度やデュプレック スの設定、表示の設定などをそれぞれ行ってください。(これらのドライバは、システムの 修復やシステムのリカバリの際にも自動的にインストールされます。)

ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付 の説明書を参照してください。

3モードフロッピードライバ

Windows 2000では、2モードのフロッピードライバ(FAT 1.44MBと720KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能)が標準でインストールされます。

3モードのフロッピードライバ FAT 1.44MB、1.2MB、720KB、640KBフォーマットのフ ロッピーディスクが使用可能)を使用したい場合は、Windows 2000のインストールが終了 した後にドライバをアップデートしてください。

また、システムを修復したときやシステムをリカバリしたときにもドライバをアップデート してください。

- 1. スタートメニューから[設定 を選択し、[コントロールパネル を起動する。
- 2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。
 デバイスの一覧が表示されます。
- デバイスの一覧より[フロッピーディスクコントローラ][標準フロッピーディスクコントロー ラ]の順でダブルクリックする。
 [標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]のダイアログボックスが表示されます。
- [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
 [デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
- 5. [デバイスドライバのアップグレードウィザード]C[次へ]をクリックし、「ハードウェアデバイス ドライバインストール」画面を表示する。
- 「ハードウェアデバイスドライバインストール」画面で「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」のボタンを選択し、[次へ]をクリックする。
 「デバイスドライバの選択」画面を表示します。
- 7.「デバイスドライバの選択」画面で、[ディスク使用 をクリックする。
 「フロッピーディスクからインストール」のダイアログが表示さます。
- 8.「C:¥NECINST¥UPDATE¥FLOPPY¥SMSC」と入力し[OK をクリックする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

モデルに「NEC 3mode floppy disk controller」が表示されます。

9. [次へ]をクリックする。

「デバイスドライバのインストール開始」画面が表示されます。

10. [次へ]をクリックする。

ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピー実行中に、[デジタル署名が見つかりませんで した]のダイアログボックスが表示されます。

11. [はいをクリックする。

コピー処理が終了し、「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。

12. [完了]をクリックする。

[NEC 3mode floppy disk controllerのプロパティ)画面が表示されます。

13. [閉じる をクリックする。

[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。

- 14. [いいえ]をクリックする。
- デバイスの一覧より[フロッピーディスクドライブ][フロッピーディスクドライブ]の順でダブ ルクリックする。
 [フロッピーディスクドライブのプロパティ]のダイアログボックスが表示されます。
- [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
 [デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
- 以降、[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]と同様の操作で実行し、[NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]画面が表示されるまで作業を続ける。
 途中で表示されるモデルは「NEC 3mode floppy disk drive」と表示されます。
- 18. [NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ)画面で 閉じる)をクリックする。
 [システム設定の変更)ダイアログボックスが表示されます。
- [はい]をクリックしシステムの再起動を実行する。
 再起動後、3モードフロッピードライバが有効となります。

サウンドドライバ

サウンドドライバは、Expressワークステーション購入時、およびシステムのリカバリ実行 時は自動で適用されていますが、システムの修復を行った場合は、必ずドライバのアップ デートを行ってください。

サウンドドライバは以下の手順でインストールします。

スタートメニューから[設定]、[コントロールパネル]の順でポイントし、[システム]をクリックする。

[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- [ハードウェア]タグを選択し、[デバイス マネージャ jボタンをクリックする。
 [デバイス マネージャ jダイアログボックスが表示されます。

[AC'97 Driver for Intel(r) 82801AA Controllerのプロパティ ダイアログボックスが表示されます。

- [ドライバ]タグを選択し、[ドライバの更新]ボタンをクリックする。
 [デバイス ドライバのアップグレード ウィザード]のダイアログボックスが表示されます。
- 5. [次へ」ボタンをクリックする。
- 6. [このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する をクリックし、[次へ ボタンをクリックする。
- 7. [ディスク使用]をクリックする。
 [フロッピーディスクからインストール]ダイアログボックスが表示されます。
- [製造元のファイルのコピー元]に「C:¥NECINST¥SOUND¥YACXG¥aw2120n」を指定し、
 [OK]ボタンをクリックする。
 「C」はシステムドライブを指定してください。
- 9. [モデル]の一覧の[YAMAHA AC-XG Audio Device]を選択し、[次へ]ボタンをクリックする。
- 10. [次へ ボタンをクリックする。 [デジタル署名が見つかりませんでした]ダイアログボックスが表示されます。
- 11. [はい]ボタンをクリックする。
 [ファイルをコピーしています]メッセージが表示されます。
- インストールが完了したら、[完了」ボタンをクリックする。
 [YAMAHA AC-XG Audio Deviceのプロパティ 」ダイアログボックスに戻ります。
- 13. [閉じる]ボタンをクリックする。 [システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。
- 14. [はい」ボタンをクリックし、コンピュータを再起動する。

ディスクアレイドライバ

ディスクアレイドライバはExpressワークステーション購入時、およびシステムのリカバリ 実行時は自動で適用されますが、ディスクアレイコントローラ(N8503-44)を使用されてい る場合でシステムの修復を行った場合は、必ずドライバのアップデートを行ってください。

以下の手順でドライバをアップデートしてください。

- 1. スタートメニューから[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
- 2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し[デバイスマネージャ]をクリックする。
- 3. [SCSIとRAIDコントローラ たクリックし、以下のコントローラのいずれかのプロパティを開く。
 - [Mylex DAC960 Series Disk Array Controller]
 - [Mylex DAC960PG/PJ/PR/PT/PTL1/PRL Series Disk Array Controller]
- [ドライバ]タブの[ドライバの更新をクリックし、[デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)]
 を選択する。
- 5. [場所を指定]にチェックし、「C:¥NECINST¥UPDATE¥DAC960」と入力し、[OK]ボタンをク リックする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

- 6. [別のドライバを1つインストールする]にチェックし、上記のパスのドライバを選択する。
- 7. [デジタル署名が見つかりません]というメッセージが表示されたら、[はい]ボタンをクリックする。
- 8. [完了]をクリックし再起動する。

新しいドライバが有効となります。

2度再起動を要求されることがありますが、2度目は再起動不要です。

システムのアップデート

システムのアップデートは、Expressワークステーション購入時には自動で適用されていま すが、システムの修復を行った場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。

- 1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
- エクスプローラから C:¥NECINST¥UPDATE¥update.exeを実行する。
 セットアップメッセージが表示されます。
- 3. システムのアップデートを継続する場合 は、[OK]ボタンをクリックする。

[Windows 2000 セットアップ **)**画面が表 示されます。

4. [コンピュータの再起動]ボタンをクリッ クしてシステムを再起動する。



障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のような セットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。



次の手順に従って設定します。

- スタートメニューの[設定 をポイントし、[コントロールパネル をクリックする。
 [コントロールパネル ダイアログボックスが表示されます。
- 2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
 [システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 3. [詳細]タブをクリックする。
- 4. [起動/回復]ボタンをクリックする。

୬ステムのプロパティ ?I×I
全般 ネットワーク ID ハードウェア ユーザー フロア (ル 詳細 パフォーマンス パフォーマンスオプションは、コンピュータの& 2000 (1000) (100
パフォーマンスオブションビー
- 球鬼を数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。
環境変数(<u>E)</u>
- 起動/回復 起動/回復オプションは、起動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。
起動/回復⑤
OK 道用(<u>A</u>)

導入編

 テキストボックスにデバッグ情報を書き 込む場所を入力する。
 <Cドライブに「MEMORY.DMP」という ファイル名で書き込む場合>

C:¥MEMORY.DMP

起動/回復	? ×
- 起動システム	
既定のオペレーティング システム(<u>S</u>):	
"Microsoft Windows 2000 Professional" /fastdetect	-
✓ オペレーティング システムの一覧を表示する(D) 30 → 秒間	
- システム エラー	
▶ システム 口グにイベントを書き込む(1)	
✓ 管理警告を送信する(E)	
☑ 自動的に再起動する(R)	
デバッグ情報の書き込み	
カーネル メモリ ダンプ	
<u> </u>	
%SystemRoot%#MEMORY.DMP	
	,

- デバッグ情報の書き込みは カーネル メモリ ダンプ を指定することを推奨します。
- Expressワークステーションに搭載している搭載メモリサイズ+12MB以上の空き容量の あるドライブを指定してください。
- [パフォーマンスオプション」ボタンをク リックする。

システムのプロパティ <u>? ×</u>
全般 ネッドワーク ID ハードウェア ユーザー プロファイル 詳細
パフォーマンス 「フォーマンスオブションは、コンピュータの処理速度に影響するアプリケー ションのシェインのキャーの働いたを登録します。
環境変数 環境変数は、特定の種類の情報の検索先を指定します。
環境変敗(6)
記動/回復 記動/回復オプションは、記動方法とコンピュータが停止するエラーが発生 した場合の処理方法を指定します。
起動/回旗⑤
OK

- 7. [仮想メモリ ボックスの[変更]ボタンを クリックする。
- [選択したドライブのページングファイル サイズ」ボックスの[初期サイズ]を[推奨] 値以上に変更し、[設定」ボタンをクリッ クする。



┱҇҇Ѳ重要

ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(22ページ)」を 参照してください。

9. [OK ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに 従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーショ ンエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を 採取できるよう次の手順に従って設定してください。



ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、およびシステムのリカバリ実 行時に自動的に設定されています。

- 1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
- 2. [名前 ボックスに「drwtsn32.exe」と入力 し、[OK]ボタンをクリックする。

[Windows 2000 ワトソン博士]ダイアロ グボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス)ボックスに診断情報 の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で 保存されます。

チェック ネットワークパスは指定できません。 ローカルコンピュータ上のパスを指定 してください。

[クラッシュダンプ)ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができ るバイナリファイルです。



5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

ダンプシンボルテーブル すべてのスレッドコンテキストをダンプ 既存のログファイルに追加 クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK ボタンをクリックする。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、 およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収 録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインス トールすることができます。

出荷時には次のユーティリティがインストール済みです。これらのソフトウェアはお客様の オーダーの内容によって異なります。

• ESMPRO/ServerAgent

ヒント

- Global Array Manager Server*
- Global Array Manager Client*
- エクスプレス通報サービス*
- 自動クリーンアップツール(ディスクアレイコントローラ(N8503-44)を装着している 場合のみ)
- Array Recovery Tool ディスクアレイコントローラ(N8503-44)を装着している場合のみ)
- ESMPRO/UPSController(本ソフトウェアを購入された場合のみ)*

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定、または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」、または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。

また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。

┏━── 「システムのリカバリ」を実行したときは、個別にインストールしてください。 重要

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム 情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リ ストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

- 1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
- CD-ROM^r EXPRESSBUILDER JをExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。

EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。

- 3. 「ツール」「オフライン保守ユーティリティ」を選ぶ。
- 「システム情報の管理」から「退避」を選択する。
 以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

Windows 2000 セットアップブートディスクの作成

「Windows 2000 セットアップブートディスク」は、何らかの原因でOSを動作させるために 必要なファイルが破損し、再起動できなくなった場合、このフロッピーディスクから起動 し、システムを修復することができます。あらかじめ作成しておくことをお勧めします。 作業を始める前に1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを4枚用意して ください。

以下の手順でWindows 2000 セットアップブートディスクの作成を行います。

- 1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
- 2. エクスプローラから「C:¥BOOTDISK¥MAKEBT32.EXE」を実行する。

「C」はシステムドライブを指定してください。

 コピー先のフロッピードライブを指定した後、表示されるメッセージに従ってセットアップブー トディスクを作成する。

以下の4枚が作成されます。

- Windows 2000 Setup Boot Disk
- Windows 2000 Setup Disk #2
- Windows 2000 Setup Disk #3
- Windows 2000 Setup Disk #4
- 4. 「C:¥BOOTDISK¥TXTSETUP.SIF」をWindows 2000 Setup Boot Disk にコピーする。

「C」はシステムドライブを指定してください。

₩●重要

- 作成したセットアップブートディスクは、ラベルを貼って大切に保管してください。
- システムの修復方法は「運用・保守編」を参照してください。

システムのリカバリ

システムのリカバリとは、カスタムインストールで出荷されたNEC Express5800/50シ リーズについて、システム破損等の理由でOSが起動できなくなった場合などにバックアッ プCDを使ってハードディスクを出荷時の状態に戻すことにより、システムを起動できるよ うにするものです。



システムのリカバリをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保 守編」をご覧ください。

システムのリカバリは添付のCD-ROM 「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。 「システムのリカバリ」を選択すると、Windows 2000 Professionalのリカバリが開始されます。



「システムのリカバリ」は、実行するとハード ディスクの各種ユーティリティやユーザ情報 が失われます。ハードディスク内に保持した いデータがある場合は、「ツール」をご利用く ださい。



作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要なサイズは、次の計算式から求めること ができます。

1000MB + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ 1000MB - - インフトールに必要なサイブ

TUUUNID	=1ノストールに必安なリイス
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ× 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 12MB

- - ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

1000MB + (512MB × 1.5) + (512MB + 12MB) = 2292MB

となります。

リカバリの準備

作業を始める前に次の媒体を用意します。

EXPRESSBUILDER(CD-ROM)

バックアップCD-ROM Disc1,2

1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚

リカバリの手順

以下の手順でシステムのリカバリを行います。

- 1. EXPRESSBUILDER CD-ROMで起動する。
- 2. 「システムのリカバリ」をクリックする。
- 3. メッセージに従って続ける。
- 以下のメッセージが表示されたら、 フォーマット済のブランクフロッピー ディスクをフロッピーディスクドライブ に挿入する。

「セットアップパラメータFDを挿入 してください」





5. 「情報ファイル選択/入力」ダイアログが表示されたら、[ファイル名] 欄に任意のファイル名を入力 し、[確定] ボタンをクリックする。

Mylexボード(ディスクアレイボード)をサポートしているモデルで、ディスクアレイボードを接続している場合は「アレイディスクの設定」ダイアログボックスが表示されます。アレイの設定をしてください。

6. 以下のメッセージが表示されたら、ハードディスク全体にパーティションを 確保する場合は は い がタンを、パーティションサイズを指定する場合は いいえ がタンをクリックする。

システムのパーティションをハードディスク全体に確保しますか? いいえを選択すると、パーティションサイズを指定することができます

[はい を選択した場合は手順8へ、[いいえ を選択した場合は手順7へ進んでください。

 「パーティションサイズ」ダイアログが表示されたら、パーティションサイズを入力し、[OK]が タンをクリックする。



パーティションサイズの設定範囲は2048MBからハードディスクの容量までです。ハードディス クの容量を超えた値を指定するとパーティションのサイズは「2048MB」で確保されます。 8. 画面に表示される指示に従って操作する。

チェック

9. 以下のメッセージが表示されたら、バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブに挿入し、 [OK]ボタンをクリックする。

「バックアップCD-ROM Disc1 を CDドライブに挿入してください。

画面が切り替わり、システムのリカバリが開始されます。

10. 以下のメッセージが表示されたら、バックアップ CD-ROM Disc2をCD-ROMドライブに挿入し、 デバイスのアクセスランプが消灯したら [OK]ボタンをクリックする。

Insert next media and press enter to continue...

ーーーー CD-ROMを挿入してアクセスランプ消灯前に続行した場合、読み込みエラーのダイアログが表 示されるので、[Retry Jボタンをクリックしてください。

11. 以下のメッセージが表示さたら、バックアップCD-ROM Disc2 と手順4で挿入したフロッピー ディスクを取り出して、[OK Jボタンをクリックする。

ここまでのシステムのリカバリが終了しました。 CD-ROMドライブから バックアップCD-ROM Disc2 を取り出してください。 フロッピィディスクが挿入されている場合はフロッピィディスクも 取り出してください 再起動後、オペレーティングシステムのインストールが開始されます。

システムが再起動します。再起動後、一時的なWindows 2000が自動でセットアップされます。 一時的なWindows 2000のセットアップが終了し、ログオン時に以下のメッセージが表示され、 しばらくすると自動的に再起動されます。

環境を構築後、自動的にシャットダウンします。

システムが再起動し、Windows2000のセットアップを開始します。

12. 画面に表示される指示に従って操作する。

以上でWindows 2000のリカバリは完了です。ログオン後、「システムのアップデート」画面が表示されますので、16ページ手順3以降を参照してアップデートを実行してください。 以降は、「ドライバのインストールと詳細設定(12ページ)」以降の説明を参照してセットアップのための各種設定を行ってください。



ESMPROなどの各種管理ユーティリティのインストールは、OSセットアップ終了後 EXPRESSBUILDER CD-ROMなどを使用して個別にインストールしてください。